

海軍公報 號外

昭和十九年四月一日(土)
海軍大臣官房

○表彰狀

銀杯一組	海軍少將從四位勳三等功四級	小山田 伸之丞
同	海軍軍醫中佐從五位勳四等功五級	越智 躬澄
同	海軍大佐正五位勳三等功五級	別府 友次郎
同	地方事務官正六位	草葉 隆圓
同	坂出市長	島田 恭平
同	地方事務官從六位勳六等	渡邊 逸雄
同	地方事務官正七位勳六等	樋口 友一
銀杯一箇	樺太廳屬	津島 一江
同	福島縣屬	吉田 五郎
同	東京都屬	及川 正
同	静岡縣駿東郡小山町長正八位	室伏 武

海軍公報 號外

1321

木 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

杯
一
箇

勳七等

四日市市主事勳七等

田邊市主事勳八等

佐賀縣藤津郡七浦村長勲七等

八幡濱市主事

高松市主事正八位勳六等

海軍衛生兵曹長勳六等

飯塚市主事正八位勳六等

海軍兵曹長勳六等

山形縣南村山郡堪澤村書記

富山縣婦負郡杉原村書記

新潟縣中蒲原郡村松町書記勲八等

勳七等功七級

坪井嘉六

小野三郎

藤田榮三郎

竹
内
廣
助

中村寛治

三 好 家 建

八
村
彌
四
郎

森
山
國
彦

奥
原
高
市

湯淺清五郎

藤
本
彌
市

西尾虎力

竹林正治

荒木快真

竹
内
夏
次



鳥取縣巡査

村田龜太郎

同 福岡縣三池郡高田村書記從七位勳六等 柴田純治
 同 愛媛縣南宇和郡西外海村書記 吉田新平
 同 高知縣高岡郡大野見村助役 正岡一郎
 同 福岡縣築上郡橫武村書記 楠本格
 同 高知市書記 德平義治
 同 熊本縣下益城郡年彌村書記勳七等 船原貞男
 同 佐賀縣佐賀郡南川副村書記勳七等 竹下壽夫
 同 石川縣珠洲郡小木町書記 巧平八朗
 同 福井縣丹生郡四ヶ浦村書記 川上巳佐
 同 富山縣東礪波郡平村書記 中川貞二
 同 勳七等 吉永國治
 多年兵事ニ盡瘁シ海軍軍事ニ貢獻スルコト不尠其ノ功績洵ニ大ナリ仍テ(各頭書ノ通)竝ニ軍事功勞章ヲ授
 與シ茲ニ之ヲ表彰ス
 昭和十九年三月三十一日
 海軍大臣
 帝國在郷軍人會岩瀬郡聯合分會須賀川町分會

(各通)

海軍軍事ヲ幫助シ帝國海軍ニ貢獻スル所洵ニ大ナリ仍テ茲ニ之ヲ表彰ス

昭和十九年三月三十一日

海軍大臣

吳 櫻 會 兵 庫 縣 支 部
吳 櫻 會 岡 山 縣 支 部
海 軍 協 會 佐 賀 縣 支 部
福 井 縣 丹 生 郡 糸 生 村
新 潟 縣 西 頸 城 地 方 事 務 所

1326

海軍公報

(部内限) 第四千六百五十八號

海軍大臣官房

昭和十九年四月六日(木)

掌理長 〇 令 達

官房第三三四號

左ノ各號(中)依リ臨時海軍被服修補講習ヲ施行ス

各該府司令官ハ第五號ノ講習員ヲ講習開始ノ前日迄ニ海軍經理學校ニ派遣スルト共ニ其ノ官氏名ヲ四月十四日迄ニ海軍經理學校長ニ通報スベシ

昭和十九年四月一日

海軍大臣

海軍大臣

一 講習科目

海軍被服修補ニ關スル事項

二 講習期間

昭和十九年四月十七日ヨリ七日間

三 場所

海軍經理學校品川分校

四 指導官

海軍經理學校長

五 講習員

鎮守府別講習員々數標準

横須賀 吳 佐世保 舞鶴 計

二五 二〇 二〇 一五 八〇

講習員ハ掌理長以下ノ官氏名ヲ講習開始ノ前日迄ニ海軍經理學校長ニ通報スベシ

前項ノ外適宜主計科准士官以上ヲ聽講セシムルコトヲ得

六 實施細目

指導官ノ定ムル所ニ依ル

七 經費

所要旅費ハ請求ヲ俟テ別途配付ス

官房機密第三八〇號

當分ノ間特設海軍飛行隊ニ於テ第一及第二搭乗配置ニ在ル者ハ航空隊ニ於テ第一及第二搭乗配置ニ在ル者ニ準ジ航空加俸ヲ支給ス

本令ハ昭和十九年三月四日以後ノ給與ニ付之ヲ適用ス

海軍公報(部内限) 第四千六百五十八號

昭和十九年四月六日

四七五

1327-2

1327

海軍公報 (部内限) 第四千六百五十八號

昭和十九年四月六日(木) 海軍大臣官房

掌理長 〇 令 達

官房第三三四號

左ノ各職官依リ臨時海軍被服修補講習ヲ施行ス

塔蘭府司令官ハ第五號ノ講習員ヲ講習開始ノ前日

迄ニ海軍經理學校ニ派遣スルト共ニ其ノ官氏名ヲ四月

十四日迄ニ海軍經理學校長ニ通報スベシ

昭和十九年四月一日

海軍大臣

一 講習科目

海軍被服修補ニ關スル事項

二 講習期間

昭和十九年四月十七日ヨリ七日間

三 場所

海軍經理學校品川分校

四 指導官

海軍經理學校長

五 講習員

鎮守府別講習員々數標準

横須賀	吳	佐世保	舞鶴	計
二五	二〇	二〇	一五	八〇

前項ノ外適宜主計科准士官以上ヲ聽講セシムルコトヲ得

六 實施細目

指導官ノ定ムル所ニ依ル

七 經費

所要旅費ハ請求ヲ俟テ別途配付ス

官房機密第三八〇號

當分ノ間特設海軍飛行隊ニ於テ第一及第二搭乗配置ニ在ル者ハ航空隊ニ於テ第一及第二搭乗配置ニ在ル者ニ準ジ航空加俸ヲ支給ス
本令ハ昭和十九年三月四日以後ノ給與ニ付之ヲ適用ス

海軍公報 (部内限) 第四千六百五十八號

昭和十九年四月六日

四七五

1327-2 1327

昭和十九年四月四日

海軍大臣

官房艦機密第二四號ノ四〇

昭和十九年四月四日

海軍大臣

各鎮守府司令長官
各警備府長官 殿

兵器簿ノ件通達

艦船、部隊、學校兵器簿航海長主管之部中左記ノ通改正ス

類別	品名	數稱	指定	記	事
信號兵器之部	信號彈	個	改正	(イ) 雜記中白龍、黃龍ヲ削除 數量更訂 龍彈別記ノモノ 信號拳銃每一挺ニ付五個相 當數ニ改ム (ロ) 龍彈、星彈合記ノモノ 信號拳銃每一挺ニ付各色五 個相當數ニ改ム	

官房設機密第七五一號

大東亞戰爭中施設工務ノ取扱ニ關シテハ海軍施設工務規則ノ規定ニ拘ラズ左ノ各號ニ依ルベシ

昭和十九年四月一日

海軍大臣

- 一 海軍施設工務規則第七條第一項及第十六條第二項ノ手續ハ之ヲ省略スルコトヲ得
- 二 特設海軍建設部、同支部、南西方面海軍民政府及南西方面海軍民政部ハ築城及一般施設ノ實施ニ關シ之ヲ海軍施設工務規則ニ依ル施設工務應ト看做ス

○通牒

官房運第一〇號

昭和十九年三月三十一日

海軍省副官

關係各廳長殿

鐵道旅行證明書ノ取扱ニ關スル件通牒

決戰非常措置要綱ニ基キ來ル四月一日ヨリ強度ノ旅行制限ヲ加ヘラルコトト相成候處海軍關係者ノ公務、公用ニ依ル鐵道旅行ノ場合ニ於ケル證明書等ノ發行方ニ付テハ運輸通信省ト協議ノ上左記ノ通取扱フコトト相成候條了知相成度

記

一 鐵道旅行證明ヲ要スルモノ
東京都區制施行區域、川崎市及橫濱市所在各驛ヨリ別紙圖示ノ圓外各驛ニ旅行スル場合ハ第二號ノ證明書ヲ要ス

二 旅行證明書

旅行證明書ハ左記樣式トシ所屬各廳長之ヲ發行スルモノトス但シ公務運賃割引證及下士官兵旅客運賃割引證ニ依リ旅行スル場合ハ本證ヲ以テ之ニ代行スルコトヲ得

尙公務運賃割引證及下士官兵旅客運賃割引證ノ發行ハ特ニ嚴正ヲ期スルヲ要ス

公務旅行證明書

住所又ハ勤務先 職業又ハ身分 氏名 年 齡	旅行目的	旅行區間 自 驛 至 驛	旅行期間 自 月 日 至 月 日
(當 年)			

昭和 年 月 日

右證明ス、所屬廳長名圖

三 軍ノ管理工場共ノ他軍ノ命令ニ依ル公用ノ爲鐵道旅行ヲ要スル者ニ對シテハ關係廳長(監督官ヲ含ム)ニ於テ第二號ノ證明書ヲ發行交付スルモノトス
(別圖略)

兵備二機密第六五二號

昭和十九年四月一日

海軍省兵備局長
海軍省經理局長

關係各廳長殿

標準型自動車同車臺竝ニ同部分品需給要領

昭和十九年度ニ於ケル標準型自動車、同車臺竝ニ同部分品ノ需給ニ關シテハ左記ニ依リ處理相成度

記

一 自動車

(一) 要求

(1) 各部局ハ自動車ノ年間所要數量ヲ兵備局竝ニ經理局ニ通知スルモノトス

(2) 兵備局ハ當該年度ニ於ケル國內自動車生産能

- 力ヲ稽ヘ且ツ關係各部局ノ要求ヲモ考慮ノ上各部局毎自動車ノ割當數量ヲ決定スルモノトス
- (3) 各部局ハ査定ヲ受ケタル範圍内ニ於テ當該部局ノ需要ヲ充ス如ク工夫スルモノトス
- (二) 發 註

- (1) 標準型自動車（ニッサン、トヨタ）及チーゼル自動車並ニ同車臺ハ經理局ニ於テ一元的ニ發註スルモノトス
- (2) 試作註文ハ當分ノ間可及的ニ之ヲ避クルモノトス

- (3) 規格ハ用途ニ支障ヲ來サザル限り各部局共可及的ニ統一スルモノトス
- (三) 納 入

- (1) 會社ハ年度當初樹立ノ計畫ニ基ツキ生産ヲ推進シ現品受領應ヘ直接納入スルモノトス
- (2) 納車ノ狀況ニ應ジ經理局ハ各部局ノ要求ヲ勘案シ要スレバ部局間相互ノ協定ニ依リ納車順位ヲ變更スルコトヲ得ルモノトス
- (3) 納入狀況ハ毎月の定期的ニ經理局ヨリ關係部局ニ通報スルモノトス
- (四) 支 拂

現品受領應ハ契約ト共ニ前金拂ヲ勵行シ現品納入セラレタルトキハ速ニ檢收ノ上納入后十五日以内ニ之ガ代金ヲ決濟スルモノトス

二 自動車部分品

- (一) 要 求
- 各部局ハ年間所要數量ヲ經理局ニ通知スルモノトス
- (二) 發 註

經理局ハ前號ノ所要數量並ニ自動車作有臺數等ヲ勘案シ必要量ヲ日本自動車配給株式會社並ニ日本自動車部分品工業組合ニ發註スルモノトス

(三) 納 入

日本自動車配給株式會社及日本自動車部分品工業組合ハ年間計畫ニ基キ生産ニ從事シ製品ヲ左ノ製品受領應ニ納入スルモノトス

關係部局	製 品 受 領 應
軍 需 部	横須賀、大阪、佐世保各軍需部、横須賀港務部、第一燃料廠、第一衣糧廠、特設燃料廠補給部
教 育 局	兵學校、機關學校、經理學校、館山砲校、防府通信學校、工機分校
醫 務 局	療品廠

經理局	橫須賀、吳、佐世保、舞鶴各經理部
艦政本部	橫須賀、吳、佐世保、舞鶴各工廠
航空本部	第一航空廠、第二航空廠
施設本部	芝浦補給部
運輸本部	橫須賀運輸部

(四) 支拂
製品受領廳ハ部分品ノ納入アリタルトキハ十五日以内ニ支拂フモノトシ可及的前金拂ヲ勵行スルモノトス

三 資材
海軍車輛工業會ハ經理局ノ指示ヲ受ケ資材ノ獲得、配給竝ニ納入ノ促進等ニ當ルモノトス

四 雜件
契約書寫ハ經理局ヨリ所要ノ向ニ配付ス

契三五號ノ二六
昭和十九年三月三十日
各廳御中
海軍省經理局

十九年度海軍軍需品運送統制契約ニ關スル件照會
首題契約ノ適用ニ當ツテハ左記ニ依ル義ト了知相成度追テ契約書ハ近ク關係ノ向ニ配布可致

記
一 昭和十九年三月三十一日迄ニ發送セシモノハ十八年度契約(十八經契第〇三七號)ニ依ルコトトシ四月一日發送ノモノヨリ十九年度契約ヲ適用ス(十八年度契約第三條第二項ハ更改契約ス)
二 本契約ニ依リ輸送セルモノノ鐵道料金ハ四月一日以降海軍省經理局直接拂ト爲スベキニ付鐵道軍用輸送券(含軍用貨物證明書)ニ支拂官衙ヲ「海軍省經理局」ト記入スルモノトス
三 運送註文書ハ四通作成シ次ノ通送付又ハ交付スルモノトス
一通……日本通運株式會社
一通……海軍省經理局
一通……受領廳

經本第三號ノ一二二七
海軍乾電池規格別冊ノ通改正ス
昭和十九年四月六日

1331

別冊ハ所要ノ向ニ之ヲ配付ス

昭和十九年四月一日

海軍艦政本部長

（参照）艦政普法規集五二三頁

艦本第一四號ノ一二三五

昭和十九年四月四日

海軍艦政本部長

關係各廳長殿

國民徵用令ニ依ル乙組合員脱退者ヲ甲組

合員ニ加入期間通算ノ件通牒

國民徵用令ニ依リ新ニ部外ヨリ徵用セラレタル雇員、

傭人及工員ニシテ昭和十九年三月三十一日以前ニ於テ

乙組合員ヲ脱退シ引續キ甲組合員ト爲リタルモノニ付

テハ其ノ受ケタル脱退一時金ヲ昭和十九年四月一日以

後六月以内ニ完納シタル場合ニ限リ前後ノ加入期間ヲ

通算シ差支ナキ義ト御了知相成度

追テ昭和十七年六月一日艦本第一四號ノ二七二六ハ

自然消滅ノ義ト了知相成度爲念

○ 辭 令

給五級俸（昭和十八年海軍省）

海軍錄事 近藤 文秋

給四級俸（昭和十八年同）

海軍書記 秋山 正敏

高等軍法會議判士ヲ免ス（昭和十八年同）

海軍少將 矢野 志賀三

第三課勤務ヲ命ス（昭和十八年海軍省兵備局）

海軍主計大尉 中西 一郎

七拾五圓

賜託 米山 博章

（各通） 同

同

秩父 敬行

六拾五圓

同 増山 榮壽

同

同 辻 注

自今報酬月額（各頭書ノ通）ヲ給ス（昭和十八年同）

同 木下 竹夫

○ 雜 款

○鹿兒島集會所設立

四月一日ヨリ左記ニ依リ別館ヲ開設致候條利用相成度

記

一名 稱 佐世保水交社鹿兒島集會所天保山別館

（舊名觀光ホテル）

二位 置 鹿兒島市天保山町五五 (電話一八八、三四八五)	三 順 路 西鹿兒島驛下車ノ場合 二中通行バスニテ放送局下車徒歩二町	鹿兒島驛下車ノ場合 市電鴨池行又ハ谷山行ニ乗車二中通 ニテ前記バスニ乗換	四 宿泊設備 一八室、料金 四、〇〇 三、五〇、 二、五〇 二、〇〇 一、五〇 (心付將 官一、〇〇 大佐七〇 中少佐五〇 尉官三〇)	五 食 事 朝 三〇、晝、夕 五五 (佐世保水交社鹿兒島集會所)	○郵便物再送ノ件 本艇宛郵便物ニシテ左記期間ニ送付セラレタル向ハ未 着ニシテ横須賀郵便局逸見分室火災ノ爲焼失セルモノ ト思考セラルルニ付再送相成度	記 自昭和十八年十一月二十七日 至昭和十八年十二月十四日 吳郵便局氣付 テ武壹(當時横須賀郵便局氣付) (第四十五驅潛艇)
○旅行順路 四月一日横須賀線(省線)ハ久里濱迄延長開通ニ付大 船方面ヨリノ旅行ハ衣笠驛下車ヲ便トス(乗合自動車 ノ便アリ距離約六軒) (武山海兵團)	○事務開始 横須賀海軍需部東京出張所(東京都芝區海岸通)ハ 四月一日ヨリ事務ヲ開始セリ	伊號第五十六潜水艦艇裝具事務所ハ四月一日横須賀海 軍工廠内ニ於テ事務ヲ開始セリ 電話番號 横工廠交換 一六〇番、一六一番	○事務所移轉 第二一五設營隊ハ自今中島部隊ト稱シ昭和十九年三月 三十一日以降現地進出迄部隊本部ヲ吳市廣町横路吳海 軍施設部工員宿舍ニ置キ吳海軍施設部内ノ事務所ヲ同 所ニ移轉セリ	長崎市飽ノ浦海軍監督官事務所内第二十四海防艦艇裝 具事務所ハ三月二十八日之ヲ撤去セリ	空〇廠(假稱)設立準備事務所ハ四月一日之ヲ撤去セ リ自今同事務所關係發送書類ハ神奈川縣高座郡大和町 高座海軍工廠宛送付相成度	

四八二

○兼任
左記ノ者孰モ三月四日軍需技手ヲ兼任セリ

22

海軍技手

中向井清

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	海軍技手
中屋正仁	角井辰操	三浦辰治	岩館榮二	柳瀬光	松浦功	幸克巳	内田伸	舛岡貞美	開徳如雪	矢倉龍男	梅良太郎	永島敏太郎	賀谷俊夫	菊田巳之吉	山本主税	貫井英一	中岡井清一

1334

海軍公報

(部内限) 第四千六百五十九號

海軍大臣官房

昭和十九年四月七日(金)

理長 ○ 令 達

官房軍第四一四號

昭和十七年官房第四六八七號昭和十七年勅令第五百五十二號ニ依リ海軍監獄ノ所屬、名稱及位置ヲ定ムル件

中左ノ通改正ス

昭和十九年四月一日

海軍大臣

表ノ末尾ニ左ノ如ク加フ

南東方面艦隊

南東方面海軍刑務所

ラバウル

(参照) 昭和十七年八月一日海軍公報(部内限)

官房軍第四一五號

昭和十八年官房第一〇九七號昭和十七年勅令第五百五十二號ニ依リ設置セラレタル海軍監獄ノ職員配置ノ件

中左ノ通改正ス

昭和十九年四月一日

海軍公報(部内限) 第四千六百五十九號

四八三

表ノ末尾ニ左ノ如ク加フ

南東方面海軍刑務所

二

五

(参照) 昭和十八年九月三十日海軍公報(部内限)

官房備第二六七號ノ二

昭和十八年官房第二六七號ニ依ル第三十海軍軍用郵便所ハ昭和十九年四月一日ヨリ事務ヲ開始ス

昭和十九年四月一日

海軍大臣

(参照) 昭和十八年十二月三十日本欄

官房艦第一六八號

昭和十六年官房第二六九九號ハ昭和十九年三月三十一日限り之ヲ廢止ス

昭和十九年四月五日

海軍大臣

1335

（參照）官房第二六九號ハ國民徴用令ニ依リ新ニ部外ヨリ徴用セラレタル雇員、傭人及工員ヲ共済部乙組合員ニ加入セシムルノ件ナリ

官房人機密第八七二號

本年官房人機密第五八六號中「第三十海軍建設部」ヲ

「第三十海軍建設部、第三十潜水艦基地隊」ニ改ム

昭和十九年四月六日

海軍大臣

（參照）昭和十九年三月十四日本欄

官房人機密第八八〇號

當分ノ間海軍豫備學生ノ軍事教育期間短縮ニ伴ヒ豫備學生期間中ニ於テ海軍豫備學生教育綱領及海軍練習航空隊教育綱領所定ノ教程ヲ履習セシムルコト能ハザル場合ハ豫備員タル海軍少尉ニ任官後引續キ其ノ教育ヲ實施スルコトヲ得此ノ場合必要ニ應ジ之ヲ術科別ニ依リ特修學生ト呼稱ス

昭和十八年官房空機密第一八四一號及同年官房空機密第一八四一號ノ二ハ之ヲ廢止ス

昭和十九年四月六日

海軍大臣

官房備第五六號

昭和十二年官房第四四九六號中左ノ通改正ス

昭和十九年四月七日

海軍大臣

表中第二十八海軍軍用郵便所ノ項設置所ノ欄「第二十四根據地隊」ヲ「第四南遣艦隊司令部所在地又ハ第二十警備隊」ニ、同職員ノ欄「所員」專任十人判任

ヲ「所員」專任十四人判任奏任ニ、第二十九海軍軍用郵便所ノ項設置所ノ欄「第四南遣艦隊司令部所在地又ハ第二十五特別根據地隊」ヲ「第二十五特別根據地隊」ニ、同職員ノ欄「所員」專任十人判任奏任

職員ノ欄「所員」專任十四人判任奏任ヲ「所員」專任十四人判任奏任ニ、第四十三海軍軍用郵便所ノ項

職員ノ欄「所員」專任十四人判任奏任ヲ「所員」專任十四人判任奏任ニ改ム

（參照）昭和十二年官房第四四九六號ハ海軍軍用郵便所設置ノ件ナリ（内令提要卷一、六四ノ九頁）

十一人判任

十四人雇員

ニ改ム

（參照）昭和十二年官房第四四九六號ハ海軍軍用郵便所設置ノ件ナリ（内令提要卷一、六四ノ九頁）

○通牒

官房第二二八號

昭和十九年四月七日

海軍省 副官

關係各廳長殿

官報拔萃發行配付ノ件通牒

艦船部隊(秘匿ヲ要セザル内地所在ノ部隊ヲ除キ外地所在ノ各廳ヲ含ム)ニ要スル官報ハ從來海軍省ニ於テ一括購入ノ上配付致居候處資材節約上自今當分ノ間艦船(艦船ニ在ル司令部ヲ含マズ)ニ對シテハ之ヲ配付セズ海軍大臣官房ニ於テ「官報拔萃」(官報掲載事項中海軍關係ノモノノミヲ拔萃印刷ス)ヲ發行シ之ヲ配付スルコトニ定メラレ候

(參照) 昭和十八年官房機密第一八一號ノ二(海軍公報(部内限)第四千三百八十四號)

官房第四二八號

昭和十九年四月六日

海軍省 副官

海軍省構内各廳長殿

海軍公報(部内限)第四千六百五十九號

昭和十九年四月七日

四八五

女子勤務員輔導ニ關スル件申進

近時女子勤務員ノ増加ニ伴ヒ首題ノ件ニ關シテハ各部ニ於テモ充分考慮ノコトトハ存候ヘ共此ノ際左記ニ依リ一層之ガ徹底ヲ期セラレ度

記

- 一 各室ニ女子勤務員ノ取締責任者(高等官)ヲ指定シ監督ニ當ラシムルコト
- 二 女子退廳(終業)時刻ハ定時トシ定時刻後三十分以內ニ構門ヲ通過セシムルヲ立前トス
- 三 女子勤務員ヲ退廳時刻以後三十分以上居殘セシムル場合又ハ退廳時刻以前ニ早退セシムル場合ニ於テハ別紙様式ノ女子勤務員家庭通知票ニ退廳シタル時刻ヲ記入シ取締責任者捺印ノ上家庭ニ連絡シ指導上遺憾ナカラシムルコト
- 四 勤務上必要アル場合ノ外男子勤務員ト行動ヲ共ニセシメザルコト壯行會、慰安會等ニ付亦同ジ

(別紙一葉添)

官房人機密第八七九號

昭和十九年四月六日

海軍省 副官

關係各所轄長殿

死亡者身上取扱條項適用停止ノ件通牒

大東亞戰爭中戰歿者等身上取扱規則ヲ適用シ身上取扱ヲ爲スベキ者ニ對シテハ左記規定等ノ適用ハ之ヲ停止セラレ候條了知相成度

記

海軍准士官以上履歷書及身上取扱規則第十七條、第十七條ノ二

海軍下士官兵身上取扱規則第九條ノ二、第九條ノ三

海軍文官身上取扱規則第十八條ノ三

海軍囑託者身上取扱規則第十三條

海軍徵備船舶船員身上取扱規則第十條

海軍徵用員（船員、工員及人夫ヲ除ク）身上取扱規則第十二條

海軍生徒學生下士官兵死亡者取扱規則第十四條、第十六條、第三十條

戰時海軍死亡者取扱規則第二條、第五條乃至第七條

徵備船舶船員死亡通知ニ關スル件通牒（昭和十七年海人機密第一〇一號）

兵備三機密第三四七號

昭和十九年四月五日

關係各廳御中

海軍省兵備局

徵備船舶名變更ノ件通知

同名ノ徵備船舶ニ付左記ノ通船名變更セラレ候

記

固有船名	船舶番號	改名
第二榮福丸	四〇九四六	い號第二榮福丸
第五蛭子丸	三九九四二	い號第五蛭子丸
第三蛭子丸	四一二二五	い號第三蛭子丸
神島丸	二四七四三	い號神島丸
第五和丸	四一四一二	い號第五和丸
海光丸	二八九三三	い號海光丸
海光丸	朝鮮七三八	ろ號海光丸
共榮丸	千葉二五一六	い號共榮丸
如月丸	五〇三七六	い號如月丸
幸榮丸	鹿兒島二〇五二	い號幸榮丸

1338

給三級俸 給四級俸 給五級俸(以上同一)														
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
白井直市	馬場正	藏並三男	大林旭生	湊	高橋静男	土岐頼夫	千羽弘	相原淳	村井哲郎	松山武彦	今井三郎	飯田廣	井波真	伊藤理一
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
三田寺忠雄	橋口九州男	西村温夫	西原義信	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
(各通)														
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
瀬川博一	若山辰男	川口長久	田尻健男	白田才治郎	登坂端午	黒飛昭三	山本繁和	高橋博	八木秀義	牧太刀郎	山内久司	藤津定男	山田佐道	藤井哲也
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
荒川	秋吉定雄	小林雅明	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
澤田三郎	佐藤高保	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同

第一海上護衛隊司令部附ヲ命ズ

1339

(各通)

通信書記補 竹口邦正

同 高松宏

同 飯豊文次

同 西山喜代司

同 矢野隆美

同 松田正昭

同 蔭山百里治

同 藤咲利男

同 海軍技手 藤井信雄

給三級俸(三十八日同)

海軍屬 荻原恒太郎

同 三木源一

同 海軍書記 荻原恒太郎

同 三木源一

同 海軍艦政本部附ヲ命ス

同 三木源一

同 海軍運輸本部附ヲ命ス

同 西村留治

舞鶴海軍工廠勤務ヲ命ス

海軍艦政本部勤務兼造船監督助手海軍技手

(各通)

同 二階堂博

同 横山謙三

同 土岐榮一

同 菅沼 肇

同 上鈴木義松

同 佐世保海軍施設部附ヲ命ス

同 吳海軍施設部附ヲ命ス(以上三十八日同)

同 南東方面艦隊司令部附海軍技手

○ 雑・款

○ 正誤

三月二十七日附海軍公報(部内限) 辭令欄四一五頁下段中東京海軍通信隊附兼海軍技術研究所附海軍航空廠支廠附ヲ免シ北東方面艦隊司令部附ヲ命スアルハ東京海軍通信隊附兼海軍技術研究所附海軍航空廠支廠附ヲ免シ大湊警備府附ヲ命スノ、四月一日附海軍公報(部内限) 辭令欄四五二頁上段十四行目「白石政雄」ハ「白石政弘」ノ孰モ誤

海軍公報

(部内限) 第四千六百六十號

昭和十九年四月八日(主)

海軍大臣官房

令 達

官房人機密第七八六號

本年三月三十一日現在第九驅逐隊職員タル者ハ特ニ發

令セラレタル外別ニ辭令ヲ用ヒズシテ第十八驅逐

隊各相當職員ニ補命セラレタル義ト心得ベシ

昭和十九年三月三十一日

海軍大臣

係 ○ 通 牒

經線機密第三號ノ十三

昭和十九年四月七日

係

海軍省經理局長

關係各支出官、資金前渡官吏殿

特設廳等ニ於ケル經費支辨科目ニ關スル

件通牒

各艦隊(支那方面艦隊ヲ除ク)所屬特設廳等ニ於ケル

海軍公報(部内限) 第四千六百六十號

昭和十九年四月八日

四九三

臨時軍事費支辨科目別紙ノ通改訂相成候
追テ既支出濟經費ニシテ本通牒科目ト異ナルモノハ
其ノ儘トシ科目更正ノ必要無之

(註) 左ノ各號ハ自然消滅トス

昭和十六年經豫機密第五號ノ四三

昭和十七年經豫機密第三號ノ七八、同第三號

ノ九一、同第三號ノ九六、同第三號ノ一〇一、

同第三號ノ一〇九

昭和十八年經豫機密第三號ノ二五、同第三號

ノ三八、同第三號ノ六九

(別紙添)

艦本機密第一一號ノ四七七六

昭和十九年三月二十五日

海軍艦政本部總務部長

各海軍軍需部長(特設ヲ含ム)殿
各兵備品補給主任

在庫兵器現狀表記載方ノ件照會

兵器經理規第四十七條(昭和十八年九月二十七日海軍

1341

公報艦本機密第一一號ノ二三(七四參照)ニ係ル首題ノ件ハ當分ノ間左記ニ依リ實施差支ナキコトト相成候條了知相成度

追テ之ガ省略ハ單ナル事務量ノ輕減ヲ圖ラントスルモノニ非ラズ記載ヲ要スベキモノニ對シテハ極力其ノ正確ヲ期シ現品ノ移動ト當該現狀表トノ時差ヲ可及的ニ短縮シ以テ所期ノ目的ヲ達セントスルモノニ付可然善處相成ル様致度

記

一 砲術長主管及内務長主管

(一) 報告ヲ省略シ得ル兵器名

時計信管、傳火筒體、機械信管用雷管、信管用管帽藥、覆類

(二) 供用全數ヲ省略シ得ル兵器名

左ノ外全部

二十糎砲以上ノ彈丸及火藥罐

(三) 受拂先ヲ省略シ單ニ出納ノミノ記入ニテ差支ナ

キ兵器名

消耗品ノ各種信管、火管、機銃彈藥包、小銃彈藥包、拳銃彈藥包、電球類

二 水雷長主管

(一) 報告ヲ省略シ得ル兵器名

蓄電池、覆類、發火器、發火器受金、電纜、抵抗器(夜中照準器用)

(二) 供用全數ヲ省略シ得ル兵器名

左ノ外全部

魚雷、縱舵機、實用頭部、發射管、空氣壓縮ポンプ、氣蓄器

(三) 受拂先ヲ省略シ單ニ出納ノミノ記入ニテ差支ナ

キ兵器名

實用頭部眼環、曳揚環、排氣用開閉弁、運搬兼曳揚環、採收兼曳揚環、導管魚雷調整用、傾斜計、發動板検査器、魚雷回轉器、擊發魚雷信管、魚雷火管、頭部曳揚用眼環、電流計發射電路用、速射電鎗、魚雷發射裝藥包、魚雷發射擊發火管、發射裝藥、發射裝藥用藥莢、發射裝藥用火管筒、發射電氣火管、發射擊發火管、火管筒用回螺器、藥莢格納筐、發射火藥格納筐、發射火藥藥囊盒、胴亂、革帶、發射管手入筐、裝氣管、導氣管接合用回螺器、壓力計類

三 機雷長主管

(一) 報告ヲ省略シ得ル兵器名

ナシ

(二) 供用全數ヲ省略シ得ル兵器名

全部但シ主要兵器ニ付十二月分ニ記載ス

(三) 受拂先ヲ省略シ單ニ出納ノミノ記入ニテ差支ナキ兵器名

爆雷諸要具、爆雷投射及投下裝置、機雷附屬具及諸要具、機雷敷設裝置、防潜網附屬具及諸要具、掃海具附屬具及諸要具、探海具附屬具及諸要具、妨掃具附屬具及諸要具、蓄電池類、充電器類、試驗器具類、秒時計類、真空管及電球類、受聽器類、電路接斷器、水測兵器用要具筐、補用品格納筐、航海長主管

(一) 報告ヲ省略シ得ル兵器名

望遠鏡格納筐及要具筐

(二) 供用全數ヲ省略シ得ル兵器名

全部但シ主要兵器ニ付十二月分ニ記載ス

(三) 受拂先ヲ省略(納入保管轉換特設軍需部ニ供給ノモノヲ除ク)シ出納ノミノ記載ニテ差支ナキ兵器名

喇叭、料藥罐、信號拳銃、三角定規、測風計算器、視圖鏡、亞式信號燈、フイスク、時計(甲板時計

ヲ除ク)、兩脚器、雨量計、氣球瓦斯移出管、肩當

式投射銃、距離概測鏡、秒時計、氣球減壓弁、蒸發計、氣球秤、號火把柄、信號火工兵器筐、三桿分度儀、氣球浮力測定器、秤水器、潜水瓶、六倍稜鏡雙眼鏡、七倍稜鏡雙眼鏡、稜鏡雙眼鏡、偏光板、ネオファン彩鏡、二式發信器機、三脚架、固定托架(六種用ヲ除ク)、水平指力計、經歷簿、環架保持器、腕型保持器、真空管、發聲器、火工兵器

(四) 在庫數ノミノ報告兵器名

帽筒、筒桿、導索、三號蓄電池、電球、寒暖計(通常、海水、乾濕、最高、最低)

五 機關長主管及各長主管電氣兵器(艦政本部第三部所掌)

(一) 報告ヲ省略シ得ル兵器名

各種消耗兵器(十月一日ニ於ケル在庫全數及一ケ年間ノ消耗全數ヲ記載ス)

(二) 供用全數ヲ省略シ得ル兵器名

全部

(三) 受拂先ヲ省略シ單ニ出納ノミノ記入ニテ差支ナキ兵器名

左ノ外全部

探照燈、發電機械、電動發電機、電動機、變壓器、配電盤、機銃射擊裝置、高聲令達機、潜水艦用主蓄電池及同部分品

(四) 以上報告ヲ要スル兵器全部ニ互リ四月、七月、十月、一月分ニ前三ヶ月ノモノヲ取纏メ記載ス
尙在庫兵器ノ特用先ハ記載ス
六 通信長主管
全兵器ニ對スル報告不要

航本機密第三三八八號

海軍航空本部技術會議員ヲ別冊ノ通定ム
昭和十九年三月二十九日

海軍航空本部長

(別冊添)

○ 辭 令

喜多善次郎

徵用中年額貳千拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス
(昭和十八年十一月十五日 海軍省)

佐々木米太郎

徵用中年額貳千拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス
(昭和十八年十一月十五日 同)

葛城山丸 船長 宇都政太郎

同 一等運轉士 皆元泰藏

(各通) 同 機關長 原田繁

同 一等機關士 山本樹興

同 主任無線通信士 安茂仁

囑託ヲ命シ部内限奏任官待遇トス (昭和十八年十一月十五日 同)

貳千五百拾圓 田原保二

貳千五百拾圓 秋田玉三郎

(各通) 貳千拾圓 村島彰

千八百貳拾圓 矢島利雄

千八百貳拾圓 森岡武夫

徵用中年額 (各頭書ノ通) ヲ給シ部内限奏任官待遇トス (昭和十八年十一月十五日 同)

海軍主計中佐 安齋茂一郎

兵食調査委員會委員ヲ命ス (昭和十八年十一月十五日 同)

岩藤一三

岡本 尙

笠格治

横山敏男

(各通)

海軍豫備生徒ヲ免ス

藤田 武夫 江口 正人 飯田 康雄 石井 峻 石塚 誠延 原 謙司 江原 明義 小田 千秋 大島 貢 大賀 歡三 隱岐 金藏 渡邊 盛光 渡邊 光雄 河野 誠一 吉田 安之助 芳野 秀秋 田中 始 田村 信孝 田子 長茂 高間 運丸

(各通)

瀧 倉 龍 昇 岡 倉 庄 一 月 村 吉 之 中 野 達 男 村 井 達 男 内 山 永 治 野 田 和 明 久 家 朋 三 介 見 朋 三 八 代 柳 元 山 根 淳 平 丸 山 拓 郎 松 井 正 夫 福 原 小 二 郎 藤 田 篤 夫 小林 修 小林 昇 小林 文 三 足 立 茂 雄 秋 草 君 平

海軍公報(部内限) 第四千六百六十號 昭和十九年四月八日

四九七

1345

海軍主計中尉 齋藤 邦輔
海防艦能美ニ要スル給與及其ノ他經費支拂ノ爲艦隊
經費分任出納官吏ヲ命ス(三三九)支出官 海軍省經理局
長)

第一課勤務ヲ命ス(三三九)海軍省教育局) 海軍屬 小 關 功

○ 雜 款

○司令驅逐艦指定
第四驅逐隊司令ハ三月二十五日司令驅逐艦ヲ山雲ニ指
定セリ

○納入驛名變更ノ件
四月一日ヨリ舞鶴驛ハ西舞鶴驛ト改稱サルルニ付現在
注文又ハ送付依頼中ノ物品ニシテ着驛指定「舞鶴驛」
トアルハ「西舞鶴驛」ト變更方取計相成度
(舞鶴海軍工廠)

○開廳
岡山地方海軍人事部ハ四月一日開廳左記ニ於テ事務ヲ
開始セリ

記
岡山市内山下三〇番地

盛岡地方海軍人事部ハ四月一日盛岡市内丸(舊盛岡聯
隊區司令部應舎)ニ開廳事務ヲ開始セリ
電話盛岡 一五九三番

第十二海軍航空廠ハ四月一日大分縣大分市今津留(日
豐線大分驛下車徒歩約三〇分)ニ開廳セリ
電話大分 一七〇七番

○附錄
築城海軍航空隊富高分遣隊ハ三月十五日宮崎縣富高海
軍航空基地ニ開隊セリ
(日豐線富高驛下車徒歩二十五分) *とん*

○事務開始
大村海軍航空隊元山分遣隊ハ三月十五日朝鮮咸鏡南道
元山航空基地内ニ於テ事務開始セリ

○殘務整理
第一百航空基地隊ハ三月十日解隊、殘務整理ハ横須賀
鎮守府艦船部隊殘務整理班内ニ於テ之ヲ行フ

○事務所撤去
呂號第四十八潜水艦艦裝具事務所ハ三月一日之ヲ撤去
セリ
第十四號海防艦艦裝具事務所ハ三月二十七日之ヲ撤去
セリ

海軍公報（部内限）第四千六百六十號 昭和十九年四月八日

五〇〇

驅逐艦霜月艦裝員事務所ハ三月三十一日之ヲ撤去セリ

第十六號海防艦裝員事務所ハ三月三十一日之ヲ撤去セリ

第十三號海防艦裝員事務所ハ四月三日之ヲ撤去セリ

○取消

三月二十三日附海軍公報（部内限）號外辭令欄一〇頁上段七行目「朝山丸機關長井川清市」ノ辭令ハ取消

○本日普通公報發行セズ

1348

別紙	區分	旅費	喫託者、雇員、 人、工、員、給與	被服糧食	器具、機械、材料、備品、 消耗品、運搬費、人夫貨等
航路部	雜給及雜費 (但シ測量、觀測關係者 並ニ工具旅費ハ水路費)	艦營費(雜給)又ハ水路費	衣糧費	水路費又ハ艦營費(艦營需品)	
經理部	雜給及雜費 (但シ工員ハ營繕費)	艦營費(雜給)	同	艦營費(艦營需品、運搬費)	
施設部	同 (同)	營繕費	同	營繕費	
設營隊	同 (同)	艦營費(雜給)	同	艦營費(艦營需品)又ハ營繕費	
設營班	同 (同)	營繕費	同	營繕費	
軍需部	雜給及雜費 (但シ工員ハ造船造兵及修理費)	艦營費(雜給)	同	衣糧費(雜費)、艦營費(艦營需品及修理費)又ハ造船造兵及修理費	
工作部	同 (但シ工員ハ造船造兵及修理費)	造船造兵及修理費	同	造船造兵及修理費	
建設部	雜給及雜費 (但シ工員ハ造船造兵及修理費)	艦營費(雜給)	同	艦營費(艦營需品、保管運搬費)又ハ營繕費又ハ運輸費	
航空廠	同 (但シ工員ハ造船造兵及修理費)	造船造兵及修理費	同	造船造兵及修理費	
燃料廠	雜給及雜費 (但シ工員ハ造船造兵及修理費)	艦營費(保管運搬費、雜給)	同	艦營費(艦營需品、保管運搬費)又ハ營繕費(機械費)	
病院	同	患者費	同	患者費	
氣象部	同 (但シ觀測關係者並ニ工員旅費ハ氣象費)	氣象費	同	氣象費	
氣象隊	同 (同)	同	同	氣象費又ハ艦營費(艦營需品)	
補充部	雜給及雜費	艦營費(雜給)	同	艦營費(艦營需品、運搬費)	
運輸部	同	運輸費	同	運輸費又ハ艦營費(艦營需品)	
港務部	同	艦營費(雜給)	同	艦營費(艦營需品)又ハ軍港要港費(港用品費)	
測量隊	同	艦營費(雜給)又ハ水路費	同	艦營費(艦營需品、運搬費)又ハ水路費	
刑務所	同	艦營費(雜給)	同	艦營費(艦營需品、運搬費)	
南方地方 在勤武官府	同	同	同	同	
民政部	同	同	同	同	
民政部	同	同	同	同	
マカッサル 研究所	同	同	同	同	
備考	職員給與、治療品、戰時特別給與品費、營繕工事費、占領地民政諸費(研究事業費)等ハ夫々當該本來科目支辨				

(昭和十九年四月八日海軍公報(部内限))

議 幹 議
員 事 長

（昭和十九年四月八日海軍公報（部内限）別冊）

分科會

兵備局 第一課長

第一分科會（飛行機型式及機體並ニ飛行船關係）

會長 航本二部長

幹事 同二部一課 P（技術會議）

議員 同總務部長 一課長 B（航空軍備ノ整備）

二課長 B（企畫綜合）

B'（B部員職務分擔）

C（企畫綜合（兵器））

三課長

同教育部長 一課長 C

二課長

同一部長 一課長 A（補給綜合）

二課長

同二部長 一課長 B（飛行機計畫一般）

1351

軍務局	一課長	C (航空軍備)	F (兵器ノ審査)
	二課長		
同四部長	一課長		
	二課長	A (射爆火化兵器)	
	三課長	A (雷撃兵器)	
同三部長	一課長	A (母艦關係一般)	
		D (發動機ノ研究實驗)	
		C (プロペラノ計畫)	
	二課長	B (發動機ノ計畫)	
		P (技術會議)	
		E (基地、搭載兵器計畫)	
		E (飛行機計畫)	
		D (飛行機計畫)	
		C (飛行機計畫)	

軍令部 一課長 戊(航空作戰)

空技廠 三課長 乙(航空軍備)

飛行機部長、飛行實驗部長、總務部企畫科長、科學部長、發動機

部長、發着機部長、推進機部長

横空 教頭、飛行長、整備主任

第二分科會(航空發動機及「フロベラ」關係)

會長 航本二部長

幹事 同二部二課 B(發動機企畫)

議員 同總務部長 一課長 B

同教育部長 二課長 B B' E(發動機關係技術會議)

同教育部長 一課長 C

同一部長 二課長

同一部長 一課長 A

同二部長 二課長

同二部長 一課長 B

軍需局	横空	空技廠	軍令部	軍務局	同四部長	同三部長	二課長
二課長	教頭、飛行長、整備主任	機部長、科學部長	三課 戊	一課 C 二課 F	一課長	二課長	B C D
L (航空燃料潤滑油)		發動機部長、飛行機部長、總務部企畫科長、飛行實驗部長、推進	三課 乙				F (基地兵器) E (補器)

1354

第三分科會（航空機用射撃、爆撃、雷撃、機雷、火工兵器關係）

會長 航本三部長

幹事 同總務部二課 C（兵器實驗）

同總務部長

一課長 B

二課長

B B' C E

同教育部長

一課長

二課長

同一部長

一課長

A

二課長

同二部長

一課長

B'

二課長

同三部長

一課長

A

二課長

三課長

H（火兵計畫）

一班長

A（雷兵計畫）

B（雷裝計畫）

D（射撃計畫） E（爆化計畫）

六

1355

E

c

A

B

3 4

E

K (電裝品計畫) L (基地用電氣兵器計畫)

E (基地用電波計畫)
 J (電氣計畫)

B (各兵器基本計畫) D (無線計畫)

D (無線計畫)

J
(電
氣
計
畫)

1. (基地用電氣兵器計畫)

	P	(基地用無線計畫)
	A	(兵裝)
	B	(航法、計器計畫)
	C	(光學兵器及寫真計畫)
軍務局	一課長	C F
軍令部	一課長	
	三課長	乙
空技廠	電氣部長、計器部長、光學部長、飛行實驗部長、總務部企畫科長	
橫空	教頭、飛行長、整備長	
艦本三部	C(無線計畫) Q(電氣計畫)	

會長 航本三部長

幹事 同三部一課

議員 同 總務部長

同
教
育
部
長

一課長

c

二課長

B

B'

C

A

一課長

B

二課長

A
(兵)

裝)

B
(航法、計器計畫)

P
(基地用無線計畫)

C (光學兵器及寫真計畫)

軍令部

一課長

•

三課長

乙

空技廠

電氣部長、計器部長、光學部長、飛行實驗部長、總務部企畫科長

橫
空

教頭、飛行長、整備長

艦本部

C (無線計畫) Q (電氣計畫)

・Q (電氣計畫)

九

1358

空	軍	軍	同		同	同	同
技	令	務	四		三	二	一
廠	部	局	部		部	部	部
發著機部長、飛行實驗部長、總務部企畫科長、火工部長	三	一	二	一	一	一	二
	課	課	課	課	課	課	課
	長	長	長	長	長	長	長
	乙	戊			A	B	A
					H (基地兵器車輛)		
					A	B (母艦兵裝、發著兵器)	
						D (水	
						母)	

第六分科會(規格關係)

橫 空	教頭、飛行長	
艦本一部	一課長	J (空母裝備計畫)
		N (水母裝備計畫)
	二課長	C (火藥、火工兵器)
艦本四部	首席部員	O (潛水艦計畫)
		P (艇母艦)
		Z (母艦)
會長 航本一部長		
幹事 同一部二課	C (技術會議)	
議員 同總務部長	一課長	B
	二課長	H
同一部長	一課長	
	二課長	C (鐵鋼規格)
		E (合金規格)
		F (光學規格)
		G (木材規格)
同二部長	一課長	B

第七分科會(航空事故調査關係)

會長 航本教育部長

幹事 同 二部一課

議員 同 總務部長

B (機體計畫一般)

一課長 B

二課長 B

B'

C

同 教育部長

一課長

二課長

G

H

同 一部長

一課長

A

同 三部長

一課長

二課長

B

三課長

同 四部長

一課長

二課長

空 技 廠

材料部長、製鋼部長

1361

横	空	軍	同	同	同
空	技	務	四	三	二
廠	局	部	部	部	部
教頭、飛行長、整備長主任	飛行機部長、發動機部長、發著機部長、推進機部長、飛行實驗部長、總務部企畫科長、科學部長	一課 一課長 C 一課 F	二課長 B	三課長 一班長 二班長	二課長 A A B C C D E F

1362

(別紙)

(昭和十九年四月十一日海軍公報(部内限))

科目		暗號特技兵講習教程標準	
項目	摘	要	同數
暗號法ノ初步	暗號作成翻譯ニ必要ナル事項		二
暗號要務	要務一般 (機密保持ニ關スル事項 海軍軍事一般及特定記號等ヲ含ム)		一五
暗號書表	主要暗號ノ作成翻譯、現用各種暗號書ノ使用法		九五
通信法及通信要務ノ大要	無線及有線通信ニ關スル諸規程及通信要務ノ概要		七
電信符號	誤字檢出ニ支障ナキ程度		六
兵器學	暗號兵器ノ大要		五
普通學	算數、國語、書字		二
英語ノ初步	「アルファベット」ヲ解スル程度		二週間
實習	通信學校ニ於ケル通信實習(暗號實習)又ハ通信隊等ニ於ケル當直勤務		
備考	一回數ハ午前又ハ午後ヲ一回トシ教育期間三月ノ場合ヲ示ス 二 各講習實施應ニ於ケル講習員ノ試験科目、標準時間及採點標準等ハ横須賀海軍通信學校所定ノモノニ準據スルモノトス		

1363